

(令和4年3月試験研究業務月報)

試験研究課題：消費拡大に向けた特徴ある宇治茶の品質特性の解明

研究

## 宇治茶機能性コンソーシアムセミナーを開催

宇治茶機能性コンソーシアム<sup>※1</sup>では、機能性成分を豊富に含む高品質な抹茶の健康促進効果の解明を進めてきており、令和元年度から3年間取り組んだ研究、「宇治茶（抹茶）でおなかの調子を整えよう」（京都府立医科大学）、「3ヶ月でみられる高品質抹茶の作用」（京都府立医科大学）、「乳酸菌で、てん茶の茎からスペルミジン」（京都工芸繊維大学）及び「高機能性成分を豊富に含む宇治茶を遺伝子レベルで選び出す」（京都府立大学）の4課題について3月22日に消費者向けセミナーを開催しました。

セミナーは、宇治茶会館からオンラインで実施し、約250名が視聴しました。Zoomのチャットでは「4週間の抹茶飲用で腸内フローラ<sup>※2</sup>が変わるのか」など多数の質問が寄せられ、30分の質疑応答時間で対応しきれないほどでした。

本セミナーの内容は、当所HPからの申し込みにより視聴できるよう準備をすすめています（<https://www.pref.kyoto.jp/chaken/index.html>）。

また、次年度以降も本研究成果を継続発展させて行く予定です。

※1 宇治茶機能性コンソーシアム：京都府茶業研究所、（公社）京都府茶業会議所、京都府立医科大学、京都工芸繊維大学、京都府立大学等が参画し、高品質な抹茶の機能性に関する研究や情報発信により、宇治茶の消費拡大を推進

※2 腸内フローラ：腸内に棲んでいる細菌は、菌種ごとの塊となって腸の壁に隙間なくびっしりと張り付いており、品種ごとに並んで咲くお花畑（flora）にみえることからこの状態を指す。正式な名称は腸内細菌叢<sup>ちようないさいきんそう</sup>。



講演の様子を Zoom で配信



チャットで寄せられた質問に応える講演者

農林センター（茶業研究所）